

様式（第9条関係）

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	第45回益田市行財政改革審議会
開催日時	令和6年11月5日（火）10:00～11:45
開催場所	益田市役所本館3階 第2会議室
出席者	<p>[審議会委員] 光延忠彦委員、西村延剛委員、岡崎光敏委員、 重親政継委員、澄川裕美子委員、土佐玲子委員</p> <p>[事務局] 政策企画局長 石川秀文 DX推進課長 岩井加恵、主査 岩田桂子</p> <p>[担当課] 政策企画課長 田原啓文、主任主事 坂崎 工</p>
議題	<p>(1)「益田市行財政改革取組方針」に基づく取組状況</p> <p>①令和6年度上半期における行革の取組について (DX推進課) …資料1、資料2-1、資料2-2</p> <p>②益田市公式LINEのリニューアルについて (政策企画課) …資料3-1、資料3-2</p>
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
問合せ先	政策企画局DX推進課 電話：0856-31-1066

審議経過

議事	(1)「益田市行財政改革取組方針」に基づく取組状況
	(2)「益田市行財政改革取組方針」に基づく取組状況
	①令和6年度上半期における行革の取組について (DX推進課) …資料1、資料2-1、資料2-2
	令和6年度の上半期の取組概要について、資料1、資料2-1により報告し、ご意見をいただく。 (いただいたご意見とその回答の概要は次のとおり。)
	[令和6年度の上半期取組について]
	● 1 内部統制の評価で、整備上の不備と運用上の不備とあったが、もう少し具体的に説明をしてほしい。
	➤ 内部統制の整備：基本方針に基づいて全庁的な体制を整備しつつ、リ

スクに対応するための規則であったりマニュアルを策定したりそれぞれのリスクに対する予防策、対応策を策定すること。

- 整備上の不備：規則や対応策がない状態、または、規則や対応策が適切に適用されていない状態
- 運用上の不備：規則や個別のリスクについてマニュアル等を策定し整備をしたが、思った通りの効果を発揮せず、結果として、事務ミスが発生したような場合
- (内部統制の) モニタリングを定期的に行っているのか。
  - 全庁的なモニタリングは年に1度、年間のリスク評価をしている。重大なリスクの発生については、随時、発生したときに報告を受け、速やかに全庁的な共有をしている。
- 再発防止策として全庁的に共有を図っているとの話だったが、どのように共有を図っているのか。
  - 重大な不備が発生した場合には、報告書の提出を義務づけており、全庁的な掲示板で事案概要や再発防止の取組について、共有している。
- 部署や担当課によってマニュアル化しにくい業務もあると思う。どのように人を配置しているのか。
  - 人事異動に関わっていないので、明確なお答えは出来かねるが、専門性があれば1, 2カ所で深く、一般行政事務であれば、幅広い知識を習得するように配慮していると考えている。
- DX推進や内部統制の取組は、ものを省くというか、ただ便利さの追求になっていっているのではないか。
  - 益田市では、自治体DXの推進の柱の一つとして、一つは市民の利便性向上ということで、便利さ。もう一つは内部事務を効率化して、少ない人員でも対応できるようにする。人材も不足している中で、行政の事業を運用維持できるような形で取り組むためには、やはり効率化や利便性の向上が必要である。内部統制についても、適正な事務事業の実現が目的となるので、財政的な部分も含め、実現する取組を行っている。
- 昨年度の審議会で、おくやみのコーナーが暗いところじゃない方がよいとの話しがあった。現在は、場所が変わり明るいところに出ていた。良いと思う。

## ②益田市公式LINEのリニューアルについて

(政策企画課) …資料3-1, 資料3-2

益田市公式LINEのリニューアルについて報告し、ご意見をいただく。

(いただいたご意見とその回答の概要は次のとおり。)

- 会社の携帯ではLINEが禁止になっていたり、個人でもLINE入れたくないという人がいたりする。そういう人へのどのようにアプローチがいいのか苦

慮している。何か考えがあれば・・・

- LINE は情報発信手段の一つだと認識している。益田市の情報発信手段として、紙媒体の広報ますだやお知らせ放送、防災行政無線などがある中の一つとして活用している。LINE を活用しないという方もいると思われるため、複数の情報発信手段を考えている。
- ごみの検索について、写真を撮影し、画像で検索できるようなことができると便利だと思う。
  - 画像認識での判別がニュースでも出ているところ。現在の LINE はそこまでの機能はないが、今後、AI を活用した仕組みを取り入れていると聞いているので、今後可能になったら実装していけるように検討していきたい。
- 登録者の増加には、紙媒体の広報だけではなかなか伝わらない部分があるため、例えばひとまるビジョンを活用するなど、興味を持ってもらえるような発信方法があると良い。
  - ひとまるビジョンを活用しての周知については、委員の指摘とおり、住民の皆にもインパクトがあるものだと感じた。今後検討していきたい。
- LINE のでも長い文章がある。LINE の掲載はどのような方法で行われているのか。
  - 最初の文章は職員が作ったり、定型文章を活用したりしている。安全安心メールについては、同じ内容を LINE に転載している。
- インフォメーションの活字は苦になる。LINE でアウトプットするときに職員が分かりやすい文章で書くとか、画像でできるものは画像で表現するということがないと普及していかないと思う。字を特徴づけるとか、色を変えるとか工夫がいるのでは。
  - 情報発信する際には、一画面に収まりきれないものは読まれないだろう、画面の半分くらいの文字量が適当であると考えている。担当課にもそれを踏まえて作ってもらうようにしている。まずは画像でお知らせをして、興味のある方は活字で読んでもらう方が見てもらいやすいとの指摘があるため、そのような形に今後していくよう検討している。

◇次回審議会開催予定

次回開催予定は令和 7 年 5 月頃を予定。